

クサフジ

Vicia cracca

マメ科

名前の由来

花と草全体がフジに似ていることから名付けられた。
漢字名：草藤



クサフジ。円内は葉（羽状複葉）

形態的特徴

ツル性で長さ2mほどになり、よく他の草にからまってツルをのぼす。葉は羽状複葉で18~24個の細長い（披針形~広線形）小葉からなり、先端の3小葉は巻きひげになっている。花は青紫色の筒形で、葉の付け根から伸びた柄の上に多数が細長くまとまって（総状）、やや一側方に片寄ってつく。

類似種と見分け方：オオバクサフジ、ヒロハクサフジ、ツルフジバカマ。

オオバクサフジの小葉は大きく、卵形で先が少し細くなり、数も4~10枚と少ない。ヒロハクサフジは海岸の草地に多く、小葉が10~16枚で両面に白い軟毛があり、花もやや大きい。ツルフジバカマは小葉が10~16枚で大きく、また托葉も大きく明らかな切れ込みが入り、花も大型。

生育環境・分布

草原、道端、林縁、海岸草地などで普通に見られる。

分布：国外分布は、北半球の温帯~亜寒帯に分布する。

国内分布は、北海道・本州・九州に分布する。

北海道内分布は、全道的に分布する。

十勝地方生育状況は、草原、道端、林縁、海岸草地などで普通に見られる。



クサフジとアブの仲間



類似種のツルフジバカマ

興味深い話

■日本では食用やお茶として用いられ、薬用として使われた歴史はないが、中国では透骨草(トウコツソウ)とよび薬用に用いられた。花の時期の全草を乾燥させたものが薬用として用いられ、筋肉のこわばりを除き、リュウマチ、痙攣、血流改善に効果があるという。

■食用として若芽、若葉、花が用いられ、若芽と若菜はおひたしやあえもの、油炒めなどにし、花は酔の物によい。くせがないため料理の応用範囲が広く、生のままサラダにそえたり、彩りを出すために肉料理、茶碗蒸に用いるのもいい。

生活史

開花時期：6月中旬~8月。開花までの年数：不明

寿命：多年草。

他生物との関わり

エゾヒメシロチョウ、カバイロシジミ、ツバメシジミ、トラフシジミ、モンキチョウ、ルリシジミの幼虫の食草となっているほか、多くの蝶で吸蜜植物となっている。



ルリシジミ

(標本-吉原利之氏所蔵)

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■■■■■									
結実期				■■■■■								

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「新版 北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜璃西社 2002

「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(草花)
在来種

(草花)
外来種

哺乳類

(鳥類)
水辺

(鳥類)
ワシ・タカ
草原・樹林